

7 de Julho de 1922 No. 248

號八十四百二第一 日曜金 日七月七日正大

仙和西報時報

NOTÍCIAS DO BRAZIL

Publicado semanalmente

Rua Fagundes N. 16

Caixa Postal H

Tele. Central, 8665

S. Paulo, Brazil

Proprietário e editor

Seisaku Kuroishi

Asignaturas

por Anno 15\$000

Semestre 8\$000

Mez 1\$500

Semana \$500

メス元帥はその譲責状をその儘

▲突き返したので、エビタシオ大統

相の命に依り、エ元帥の行為は偕行署名を経て官報で発表される事になつたが

社の總裁が、一國行政に干渉する越

了。此の署名に際して上下兩院議

した、かくて此の戒嚴令は令第四五

月間偕行社閉鎖を命じた。二日エル

メス元帥はその譲責状をその儘

灰色の空 (二)

丘の人に

實母の愛情を判然と知らない彼女は、一人の父の愛さへ、ある形式的なものゝやうな猜疑さへ感じし事があつた。浅ましい自己の偏屈な感情の發端だと自説しても、繼母と彼女の間に決まつた苦しい立場の父には勿論同情してゐる、然し冷かな感情の衝突は時折り遡く事の出来ない事實だつた、三つの異づた蒼白い魂が巴のやうに旋轉しつゝ喰合つたり啜り泣いたりするのだった。

『呪はれてゐるんだ、何者かに呪ははありやしない』渡伯した翌年

他にあるだらぶか? 私が此の家に歸つてから一日だつて快い日と云つて倒れた夫、時々心にもない無理を

ト耕地で熱病で死んだ異腹の弟、彼の冷酷な繼母の子とは思はれない位を慕つた弟、B植民地で不慮の災

は野に咲く名無草の花の様に人目にふれなかつた。けれども私達二人の間は可成り濃い色彩に浮きで、ゐた

のだ。永劫に變るまいと盟つた心! それとも、それがどうしたと云んだ

夫婦にならうと互ひに思つた心! それは神佛の前にでも恥べき事はないと思つた。

『何? 堂のタコで食ふ? ウン知つてゐるよ! 牛をこの中に入れろそしてお前も乗んだ』

中から一艘の大きなうつろ船を引出され、常夏の國に流浪して來たのか?

『よしよし教へてやるからわしと一緒に馬車にのれ』

『僕はそれが知りたいんですから教えて下さい』

『何? 堂のタコで食ふ? ウン知つてゐるよ! 牛をこの中に入れろそしてお前も乗んだ』

『オイ、牛をこの中に入れろそしてお前も乗んだ』

『さあ小僧牛を引て上れ』

『さあ小僧牛を引て上れ』

『お爺さんは石のころごろした川の分けて行くのを見つて、東郷元帥が凱旋して、日比谷の歓迎會へ臨む時、矢

門のある煉瓦作りの家へ着きました。『さあ下駄下りろ、そして裏へ行って牛を引出してこ!』

『命合しました、そこで太郎さんはお爺さんへひつけられた通りに裏から大きな牛を引出で来ました。』

『さあ下駄下りろ、そして裏へ行って牛を引出で来ました。』

日本近信

新婦人運動の現状

◆奥、うめお君が大將株

治安警察法第五條の撤廢

の

争議で勇名をはせた山内みな子

▲變な女が現はれた

民法の目的に適合するものと認める

婚姻を行ふ所謂代理結婚は米國移

或は直接手紙で各戸に送附されたり

花の露印醤油

コンデ、デ、サルゼーダス街五〇番

K. Outa & Gia.

太田吉郎

隆次

太田吉郎

